〔６番　上ケ吹豊孝　登壇〕

○６番（上ケ吹豊孝）

それでは、議長のお許しをいただきましたので一般質問をいたします。

１つ目、神岡町の化石発見をどう生かすのか。神岡町において、約１億2,700万年前の地層からワニ形類の歯化石を含むボーンベッドが発見されたことは、皆様も報道などで御存じだと思います。これは飛騨市にとって大変意義のある発見であると思います。ボーンベッドとは、古生物の骨や骨の破片を多量に含む特定の地層または堆積物です。ちなみに、１億2,700万年前という時期は、白亜紀と呼ばれる時代の中頃に当たり、白亜紀とは、およそ１億4,500万年前から約6,600万年前までの約7,950万年間を示す時代名だそうです。7,950万年間と言われても、その長さは実感できないと思いますが、人類（ホモ・サピエンスと呼ばれる種類）が地上に登場してから、およそ19万5,000年と言われているので、7,950万年間は長い人類の歴史を400回以上繰り返さなければならない、とてつもなく長い時間だと分かります。

この化石は、岐阜県内で初めて確認された白亜紀のワニ形類化石で、手取層群における最古のワニ形類化石記録とされるなど、学術的にも大変貴重なものだそうです。また、これまで神岡地域では、恐竜の足跡化石や植物化石などが確認されてきましたが、今回、魚類やカメ類などを含む多数の脊椎動物化石が約200点発見されたことで、約１億2,700万年前の神岡地域にどのような生物が生息し、どのような環境であったかを解明する上でも、大きな可能性を持つ地域であることが明らかになりました。飛騨市においても、令和８年度から神岡恐竜発掘支援プロジェクトを進め、化石産地の保全や発掘基盤の整備、岐阜県博物館との連携、さらに、市民への教育・体験機会の提供などに取り組まれております。

神岡の地層からは、これまで多数の骨化石が見つかっています。その数は約200点以上になります。特に、子供たちが自分たちの住む地域から１億2,700万年前の生物の痕跡が発見されたことを知り、地域への夢を持つことは大きな意味があると思います。また、全国的にも恐竜や化石を目的とした観光への関心は高く、今後さらに発掘調査が進み、新たな化石が発見されれば、神岡町の大きな観光資源となる可能性もあります。そこで、今回の貴重な発見を教育、文化、観光、地域振興、さらには交流人口の拡大へどのようにつなげていくのか考えを伺います。

１つ目、発掘調査に向けた取組は。今回発見されたワニ形類の化石は、約１億2,700万年前という非常に古い時代のものであり、手取層群における最古のワニ形類化石という大きな学術的価値があると言われています。さらに、今回発見されたボーンベッドには、魚類やカメ類などの脊椎動物化石が確認されており、今後、恐竜などの大型脊椎動物化石が発見される可能性も期待され、大いに夢が膨らみます。市の令和８年度予算では、県による今後の発掘調査に向けて市が関係用地を先行取得し、作業路の整備など発掘調査の基盤を整えることとされています。そこで、今後、県や岐阜県博物館、福井県立恐竜博物館など関係機関とどのように連携し、継続的な発掘調査と研究を進めていく考えでしょうか。また、今回の発見をきっかけとして、今後さらに重要な化石が発見された場合、市としてどのように保存・研究・公開につなげていくのか伺います。

２つ目、教育や学習の活用について。今回の化石発見は、子供たちにとって非常に大きな学びの教材になると考えます。約１億2,700万年前という私たちの日常生活からは想像もできない、遠

い時代の地層が実際に自分たちの住んでいる神岡に存在し、そこから化石が発見されたということは子供たちにとって大型恐竜の化石が出ないかと、大変興味深いことと思います。今回の化石発見を今後の神岡地域だけでなく、飛騨市全体の小中学生のふるさと学習や理科・地学・教育にどのように活用していくお考えでしょうか。また、市外、県外の小中学生を招いての学習も検討されているのか伺います。

３つ目、市民への周知や情報発信は。今回の発見は学術的にも非常に価値の高いものですが、特に市外や県外の方々にも多く関心が寄せられているのではないかと思います。このことからも、今回の化石発見は、まず多くの市民の皆さんに知っていただく価値が十分にあると考えます。市として、この化石を市民の皆さんに広く知っていただき、神岡には約１億2,700万年前の化石があるということを地域の誇りとして定着させるため、今後どのような情報発信や展示、学習機会を設けていくのか伺います。

４つ目、進捗状況と今後のスケジュールは。市の令和８年度予算資料では、発掘支援プロジェクトに733万円を計上し、用地取得、立木補償、発掘基盤整備等事業を円滑に進めるとともに、保全体制を確立とありますが、現状の進捗状況を伺います。また、岐阜県博物館との連携を深め、さらなる学術調査を推進するとありますが、来年度以降の調査内容とスケジュールを併せて伺います。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育長　下出尚弘　登壇〕

□教育長（下出尚弘）

神岡町の化石発見について、まず私から御質問の２点目、教育や学習の活用についてお答えいたします。議員が御指摘のとおり、今回の化石の発見は子供たちにとって非常に興味深く、価値のある地域の学習資源であると捉えております。既に、本年６月には神岡中学校１年生を対象に、岐阜県博物館の学芸員による出前講座を実施しており、生徒たちが自分たちの住む地域のすばらしさを直接学ぶ有意義な機会となりました。教育委員会といたしましても、教科書だけでは得られない知的好奇心やリアルな探究心を刺激し、郷土愛を育むことができるようにしていきたいと考えております。そのため、２つの視点から取組を推進してまいります。

第１に、小学校６年生や中学校１年生の理科教育で、地層や化石について学ぶ単元において、今回発見された化石や地層の写真、発掘調査の資料等を活用することで、教科書で学んだ内容と自分たちの地域を結びつけた学習を大切にしていきます。

第２に、総合的な学習の時間におけるふるさと学習や、探究学習での活用です。例えば、約１億2,700万年前の神岡地域はどのような場所だったのか、どのような生物が生息していたのか、この化石を地域の学習や観光にどう生かせるのかなど、子供たち自身が自らの問いを立て、調べ、考え、発信する学習へと発展させることが考えられます。その際には、県博物館や研究者など、専門的な知見を持つ方々との連携も図りながら、実物や専門家の話に触れる機会を設けることも検討し、進めてまいります。

〔教育長　下出尚弘　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔神岡振興事務所長　大始良透　登壇〕

□神岡振興事務所長（大始良透）

それでは、私からは１点目、３点目、４点目の御質問についてお答えいたします。

初めに、１点目の発掘調査に向けた取組につきましてお答えします。議員御説明のとおり、令和６年７月に岐阜県博物館及び福井県立恐竜博物館、福井県立大学恐竜学研究所の共同調査により、神岡地域に分布する手取層群において白亜紀脊椎動物骨化石を含むボーンベッドが発見され、そこから岐阜県初、かつ、国内最古となる約１億2,700万年前のワニ形類歯化石が発見されました。この発見が学術的に極めて高い価値を有する成果であることから、現在、岐阜県博物館を主体として本格的な発掘調査が行われることとなっております。市といたしましても、今年度予算において土地購入費及び立木補償費等を計上させていただき、発掘現場へ至る作業道の整備等を目的とした用地の先行取得を進めてきたところであり、現在、その取得を完了している状況でございます。なお、今回取得いたしました用地の規模につきましては、地権者８名から成る19筆、面積にして約8,387.61平方メートルとなっております。

また、関係機関との連携についてですが、本年８月に岐阜県博物館との間で、神岡恐竜渓谷プロジェクトに関する連携協定を締結しました。主な協定内容につきましては、岐阜県博物館が学術調査・研究を担い、市が調査地の取得・管理を担う役割分担のほか、実物化石やレプリカの市への優先的な貸与・展示、発掘現場のデジタルアーカイブ化や緊急時の化石保護体制の構築などを定めております。

今後さらに発掘調査が進み、学術的に重要な化石などが発見された場合には、貴重な発見を市の誇るべき地域資源として最大限に生かすため、現在の連携内容をさらに具体化させた新たな協定を再度締結する予定としております。

次に、３点目の市民への周知や情報発信についてですが、議員御指摘のとおり、今回の発見につきましては市民の方々はもとより、市外、県外の方々からも多くの関心が寄せられていると認識しております。市といたしましては、貴重な資源がこの神岡に存在するという事実をさらに幅広く知っていただき、地域の誇りとして醸成していくことが重要であると考えております。このための周知の取組といたしまして、現在は主に化石フォーラム開催の告知等を通じた情報発信を行っているところでございます。今後はこれに加え、市教育委員会と調整を図りながら、市内中学校での出前講座の拡充や市内小学校でも化石を学ぶ授業などを取り入れていただくとともに、子供たちが地域の歴史に触れ、学ぶ姿を市の広報誌や公式ＳＮＳ等の様々な媒体を通じて市民の皆様へ広く共有してまいりたいと考えております。

最後に、４点目の進捗状況と今後のスケジュールにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、市として発掘調査に向けた用地の先行取得を本年８月に完了しており、現在、岐阜県博物館において、発掘調査と並行して作業道の掘り下げ等の整備を進めている状況でございます。なお、調査期間は10月中旬までの予定と伺っております。次に、来年度以降の調査内容と今後のスケジュールについてですが、発掘調査そのものにつきましては、岐阜県が主体となる事業であるため、詳細まで市からお答えすることはできませんが、今後の発掘調査につきましては、数年先まで継

続的な実施を見据えており、今回の調査結果も踏まえて、来年度は化石発見が最も有望視されている地点の測量調査を行う予定であると伺っております。なお、仮に今後の調査において有望な結果が得られ、県による発掘事業が拡大される場合には、当該エリアには一部民有地が含まれているため、引き続き県と緊密に情報共有を図りながら、必要なタイミングにおいて市として用地の取得を進めていく考えでございます。

〔神岡振興事務所長　大始良透　着席〕

○６番（上ケ吹豊孝）

まず初めに、教育長のほうから先に説明いただいたので質問なんですが、小学校６年生、中学１年生の生徒たちにいろいろな勉強会をされているということで、子供たちに興味を持っていただくことは大変重要なことだというふうに思っています。今やられているんですが、これを飛騨市の生徒に今後もカリキュラムとして継続していくお考えはあるのでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（下出尚弘）

現段階では、まだ飛騨市としてカリキュラムを組んで実践をしていくというところまでは検討しておりません。ただ、今後、化石の発掘が期待どおり盛んになっていく中で、より学習資源として価値のあるものと認められたところで、また検討していきたいということを思っております。

○６番（上ケ吹豊孝）

90％以上化石が出るという話を聞いたので、今のうちから準備されたらいいんじゃないかというふうに思いますので、またその辺をよろしくお願いします。

あと、今は授業としてやっているんですけども、やはり教室で学ぶのと現地で学ぶってことは全然違うと思いますが、これは県の事業なのでなかなか市が介入できるか分かりませんけど、発掘調査するところを生徒が現地で見学するといったことは検討されていませんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（下出尚弘）

今後の発掘作業の状況を見届けながら、まず安全がしっかり確保されているということであれば、今御指摘のとおり現地に行って発掘の様子を見るということは非常に子供にとっては刺激がある、興味・関心を高めることだと思いますので、検討していきたいと考えております。

○６番（上ケ吹豊孝）

ぜひ前向きに、また、子供たちにとって夢のある教育をよろしくお願いします。

次に１点目なんですが、用地買収をされて、今造成されるということで、私が思っていたところがあったので、今週の月曜日、２日か３日前に見に行ったら、思ったところとは全然違うところを造成されていて、こんなところなのかというふうに思ったんですが、今ほどの説明で8,300平米ですか、ざっと90メートル掛ける90メートルぐらいですかね。新聞報道では断層の写真があって、見るからには断層の辺を掘るのかなと思ったんですが、実際、今回掘削する規模というのが分かればお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今現在、市として用地を取得させていただきました8,387平米ですが、今年度はほぼ作業道の整備に使われております。

○６番（上ケ吹豊孝）

10月頃までということで多分その程度の作業量だと思うんですが、我々が気になるのは一体どんな掘削をするのか。例えば用地買収したところを掘っていくのか、川から断層を壊していくのか、どういった掘削になるか発表できる範囲で分かればお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

あまり詳しい内容につきましては今説明できませんが、化石発見が有力視されているボーンベッドの場所までは少し距離がございます。現在、その場所をめがけまして、作業道をスロープ状に土を掘りながら、あるいは場所的には掘った土を盛りながら進めている状況でございます。そしてその中で、作業道の整備ということなんですが、表面の土を削っていく中で、ボーンベッドの地層が出てきた際には、そこの専門の事業者が重機の先端、ブレーカーと呼ばれる岩盤に穴を開けるアタッチメントに取り替えて、岐阜県博物館の学芸員の指導の下、慎重にそこの層を崩していくということをしながら作業道も平行して造っていくということを行っております。

○６番（上ケ吹豊孝）

我々のイメージでは大型重機で土木屋さんががんがんやるんじゃなくて、学芸員の指導の下、丁寧に掘られるということだというふうに伺いました。それで、今年は造成が主と、あと作業道ということなんですが、今後の詳しいことは言えないということですが、概算で今後見込まれる掘削量っていうんですか、例えばダンプ何十杯分だとか、25メートルプール何杯分だとか、今後どのぐらい掘削されるかというのは大体予想できてると思うんですが、もし分かればお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今現在、岐阜県博物館の学芸員の方にお聞きしている中では、作業道を整備するに当たりまして切り土、土を排除していく量におきましては約2,800立米と伺っております。反対に土を盛って道を造っていく盛土につきましては、約1,500立米と聞いております。ですので、その差額として、残土は今のところ1,800立米ほど出る予定と聞いておりますが、最終的に作業道の整備を進めていく中で盛土が必要となってくる、要は残土が必要になってくるということが想定されておりますので、現在、残土1,300立米分は搬出することなくそこの場に置いてあるという状況でございます。ちなみに10トンダンプで換算をした場合には、約240台分と想定をされているということでございます。

○６番（上ケ吹豊孝）

その240台分は、全て岐阜県博物館へ持っていくのか、今の造成したところで学芸員の方が調査されるのか、そこだけもう一度お願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

残土1,300立米分は一番最終地点におきまして盛土で道を造るところに使わせていただくということでございますので、搬出は一切しないということを伺っております。

○６番（上ケ吹豊孝）

分かりました。今後ですけども、重要な化石が発見されるというふうに思っていますし、そういったことで向かっていかないと、いざ大きい化石が出たときに大変なことになるので、今市民の方も新聞とかいろいろなことで知っている方も多いと思うんですが。何年かかけて順次掘削されるということなので、出てきた場合、化石をどこに保管するのか。例えば、岐阜県博物館へ持って行って展示するのか、神岡町に置いて展示することまで考えているのか、その辺を伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今作業道と一緒に発掘調査も並行して行っているということですが、今後、新しい化石が発見された場合は、化石の保管でありますとか研究につきましては、連携協定に基づきまして権利が岐阜県に帰属されるということでございますので、岐阜県のほうでしっかりと対策をされるということでございます。

○６番（上ケ吹豊孝）

岐阜県博物館へ持って行くということですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

岐阜県博物館のほうへ持って行くということでございます。

○６番（上ケ吹豊孝）

地域のことを考えると、結局岐阜県の博物館に持って行ってしまうと、神岡町での展示っていうのは今後計画されていないのか。大きい恐竜が見つかったら組み立てとかして、その後、岐阜県の博物館にそのまま居座るのか、その辺をお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今から発見された化石につきましては、一旦は岐阜県の博物館に持って帰って、そこで調査でありますとか研究をします。その調査が終わった後、岐阜県博物館から発見があった進捗状況等の発表が来年の１月以降にあります。もし仮に化石が出た場合、飛騨市としてはレプリカでありますとか、実物を実際にお借りをしてイベントとか中学校、小学校の授業とかに使わせていただ

くというようなことは行いたいと思ってます。

○６番（上ケ吹豊孝）

地元に展示するということが、飛騨市の活性化、神岡の活性化になるというふうに思っております。今後出てくることを期待しているんですが、例えば化石が出た場合、今宙ドーム・神岡は宇宙の展示をやっていますが、今後、宙ドーム・神岡に恐竜化石と宇宙ということを検討されるべきじゃないかと思いますが、その辺の話はないですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今年度につきましては、作業道を造りながら徐々にそこの場所まで進めていって、来年度以降に測量調査ということでございますので、発見されることを前提に今のうちにということにつきましては時期尚早と思っております。ただし、市としても、今回用地を取得させていただいて、あとは岐阜県博物館のほうに事業をお願いするということではなくて、市の職員も実際現地に何回も行きまして、学芸員の方とか、専門事業者の方といろいろ話をする中で、もし仮にすごい重要な化石が出てきた場合には、ジオパークとかを造ったほうがいいんじゃないかとか、もし造るのであれば、出てきた化石の大きさによって保管するケースとかもいろいろ必要になりますよとか、そういった場所を造るならぜひここがいいとか、そういった夢を学芸員の方とか、事業者の方と話しをしております。そういった話をまとめておいて、市民の皆様方に話せるタイミングができましたら、例えばジオパークとか博物館とかを造るとするとこうだよというような、情報提供としての資料は作っておこうと思っております。

○６番（上ケ吹豊孝）

今ほど、大始良神岡振興事務所長が言われたように、まだ見えないものを初めから出るというふうに思って夢を持って語らないと、なかなかうまくいきません。出ません。なので、大きい化石が出るという考えで向かっていただきたいというふうに思っております。

最後になりますけど、最近の新聞報道で、北海道の夕張市で30年前に出た化石、これは約１億年前の白亜紀の化石で、分析したところ鎧竜類の新属新種ということで、北海道であれば日本海がなかったということで、中国大陸の恐竜らしいんですけども、調べると北米に近い恐竜だということでした。今まで見つかった恐竜で一番大きいのが、アルゼンチンで見つかった45メートル、90トンという大きさで、ベストファイブでも30メートル、40～50トンということで、北海道でも北米に近い恐竜が見つかったということで、そう思うと、神岡町の横山の採掘場所で40メートルとは言いませんけど、20～30メートルの原型をとどめた化石が何体も見つかることを願って、質問を終わりたいというふうに思います。

それでは２つ目、郷土史資料の重要性について。飛騨市には、長い歴史の中で先人たちが築いてきた文化や暮らし、産業の歴史があり、それらを後世に伝えていくことは私たちの大切な役割であると考えます。特に神岡町には、鉱山の歴史や地域の産業、集落の暮らし、祭りや文化、人物の記録など、公的な記録だけではない貴重な郷土資料が数多く存在しています。また、神岡町には、個人が何十年もかけて調べた研究ノートや新聞記事、冊子など、収集・整理してこられた方が多くいらっしゃいます。しかし、そのような方々が高齢となり亡くなられた場合、残された

資料の価値や重要性を家族が十分に認識していなければ、家の整理などの際に貴重な資料が廃棄されてしまうことを心配しておられます。こうした資料は、一度廃棄されてしまえば二度と取り戻すことができません。行政が積極に加わり、地域に残されている資料を早い段階で把握し、必要なものを保存・デジタル化する仕組みを整えることは大変重要ではないかと考えます。これらは、神岡で個人的に研究されている方から、何とか貴重な郷土資料が廃棄される前に手を打たなければならないという思いを伺い、質問させていただきます。

１つ目、個人所有の歴史資料の実態調査は。飛騨市には、行政が保有する公文書や指定文化財だけでなく、地域の個人研究者が長年にわたり収集・調査・研究してきた歴史資料が数多く存在すると伺っています。特に、神岡町は長年にわたる鉱山の歴史があり、個人収集した写真、文献、聞き取り記録なども貴重な地域史であり、最近個人的に調査されている方のいろいろな資料を拝見し、神岡町にはほかにもたくさんあると伺いました。こうした個人所有の歴史資料の実態をどの程度把握しているのか、また、現在どのように資料の存在を調査されているのか伺います。

２つ目、個人所有の歴史資料の保存は。個人が長年にわたって収集・保存してきた資料には、所有者本人にとっては価値が分かっていても、家族や第三者にはその重要性が分からず、所有者の死亡や家の整理を機に廃棄されてしまう可能性があると伺いました。そこで、今個人が所有されている資料を市が主体となって、神岡町をはじめ市内の郷土史資料を所有する方に呼びかけ、資料の種類や内容、保存状況などを調査し、リスト化し、将来的に保存するべき資料を把握する郷土史資料の調査・登録のような仕組みを設ける考えはないでしょうか。さらに、所有者の同意を得た上で、重要な資料については市が一時的または恒久的に預かる、あるいは複製・デジタル化して保存するなど、所有者が安心して資料を託せる制度を検討できないか伺います。

３つ目、郷土史資料室の環境整備は。先日、神岡町の郷土史資料が保管されている建物を訪れ、資料の状況や保管環境について文化振興課職員の方に案内していただき、調査を行いました。そこには、神岡町の自宅に保管されている古文書や歴史・地域の歩みなどの資料や、それ以外にも大変貴重な資料が保管されていました。これらは地域の歴史を知るためのかけがえのない財産であり、将来の世代へ引き継いでいかなければならない大切な文化的資産であると思います。しかし、実際に現地で調査をしてみると、部屋には空調設備がなく、夏場の室内は非常に暑くサウナに入っているような感覚で、10分もたたないうちに汗びっしょりとなり、大変厳しい環境でした。人が短時間滞在するだけでも厳しい環境であることを考えると、そこで長時間保管されている歴史資料については、温度や湿度による劣化、保存状態への影響が非常に心配されます。郷土史資料は保存するだけでなく、研究者や市民が実際に調査・活用しやすくすることが望まれます。しかし、夏は高温、冬は厳しい寒さとなるような環境では、資料を調査する側も長時間滞在することは難しく、結果として貴重な資料が十分に調査・研究されないままになることが懸念されます。高温多湿となる夏季や低温・乾燥する冬季の環境が古文書、写真、紙資料などの歴史資料の劣化にどのような影響を及ぼすと認識されているのでしょうか。現在保管されている資料について、劣化やカビ、虫害などの状況を調査されているのか伺います。また、神岡町以外の３町の保管状況の調査はされているのかあわせて伺います。

４つ目、郷土史資料の閲覧方法の改善は。現在、資料を調査するためには事前に市役所の文化振興課に連絡を行い、さらに職員と閲覧者の都合が合えば、鍵を受け取るために担当職員が古川

町から神岡コミュニティセンターまで移動し、そこから釜崎コミュニティセンターまで移動しなければならないという仕組みは、資料を調査・活用する上で職員が長時間立ち会うことは、少なからずハードルになっているのではないかと考えます。ここ数年間の神岡町の調査件数をお聞きしましたが、年間２件から３件、ないときはゼロ件と大変少なかったです。また、職員の方も古川町より移動して立ち会う時間、移動時間を考えると、仕事としての効率が悪いのではないでしょうか。市は、郷土史資料を保存するものとしてだけではなく、多くの市民が調査し、学ぶことを目的として考えれば、調査しやすい環境をつくることや鍵の管理方法、立会い方法も含め検討すべきと思いますがいかがでしょうか。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育委員会事務局長　柚原徹守　登壇〕

□教育委員会事務局長（柚原徹守）

それでは、１点目の歴史資料の実態把握は、本市の歴史文化を継承する上で重要な課題であると認識しています。これまで各町村史編さんの際に、郷土史資料を整理・保管していますが、その後は悉皆的な調査は行っていません。個人がお持ちの資料は、古い時代の古文書などの原本史料と現代の方々が調べられたノートのような記録に分かれます。現状では、原本史料をお持ちの方から申出があった場合に、職員が調査や撮影などで記録保存することはありますが、組織的に調査をする仕組みは確立しておりません。こういった歴史資料を含めた文化財を地域総がかりで守り、未来へ継承しながらまちづくりに生かすために、今年度より策定を始めた文化財保存活用地域計画において、未指定文化財を把握することとしており、その過程で指定・未指定を問わず、歴史的価値のある資料の把握に努めてまいります。

２点目の個人所有の歴史資料の保存については、廃棄されるリスクは御指摘のとおりであり、こうした歴史資料は一度廃棄されれば二度と取り戻せない貴重な地域の財産と認識しております。一方で、市が主体的に全ての個人所有資料を把握し、受け入れることは困難です。このため、現状では歴史的価値が高い原本史料を中心として、どのような資料を将来にわたって保存していくかという使命を市民の皆様と共有することを優先すべきと考えております。

市の第１期総合政策指針の振り返りにおいて、市で一方的に保存計画を進めるのでなく、市民や地域住民、関係者とともになぜ保存するのか、なぜ価値があるのかといった普及活動を進め、文化財を守っていく機運を醸成しながら、みんなで進めていくことが重要としまして、第２期では市民や団体と連携し、飛騨市特有の地域資源を大切にすると示しております。これは歴史資料の保存を進めるには、行政の政策だけではなく、市民や地域の主体的な活動が相まってこそ、より多くの資料が後世に継承されるものと考えているからです。そのため、保存に協力いただいている方々を顕彰する取組や歴史的価値のある資料のデジタル化等により、所有者が安心して資料の価値を後世に託せる環境づくりをすることが、市が行うべきことと考えております。歴史資料の共有手段としてのデジタル化は、飛騨みやがわ考古民俗館でも導入し、効果を確認しております。今後はデジタル化により、検索しやすい環境の整備に努めてまいります。

なお、個人の方々が記録したノート等については、原本資料との優先順位の関係から、保存対象とは考えておりません。ただし、刊行物など商業出版、自費出版にかかわらず冊子体で公開さ

れたものであれば、飛騨市図書館資料収集方針で示す郷土資料の要件を満たすものとして、図書館で保管閲覧できるようにしております。

３点目の保管施設の環境整備について、神岡町の町史編さん時の調査資料を保存する釜崎コミュニティセンターの一室には、御指摘のとおり空調整備はございません。そのほかにも資料を保管する場所は市内各地に複数ありますが、飛騨市美術館、飛騨の山樵館、飛騨みやがわ考古民俗館以外に空調設備はありません。資料にとっていい環境を整えることは重要ですが、空調を整備する場合、整備費に加えて光熱費や維持管理費にも膨大な費用が必要となり、全ての保管施設へ空調設備を整備することは困難です。そのため、現状の環境をまずは数値で把握する必要があると考え、昨年度から千代の松原コミュニティセンターの歴史的公文書の整理事業において、保管場所の温湿度データの調査を開始しました。その結果、空調を入れなくとも、温湿度の両面から資料の劣化を招く極端な環境変化は認められていません。神岡町史編さんの資料についても、職員が行くたびに目視確認を行っておりますが、カビや虫の被害などの劣化は認められていません。今後は他施設でも同様に温湿度を測定するなどして、より詳細に保管環境を把握していきます。

４点目の閲覧方法については、御指摘のとおり、現状では、職員の立ち会いに伴う移動時間や、業務効率の課題があることは認識しております。閲覧者は、令和６年度３件、令和７年度１件、令和８年度は現在のところ２件です。この件数の原因が、アクセスの困難さにあるのか、あるいは専門的なニーズそのものが限定的なのか分析する必要があると考えております。御提案の立会い方法の改善については、史料保全とセキュリティー確保の観点から、鍵の管理を行う職員の立会いが現状では必須と考えております。今後は利便性向上を勘案しながら、工夫できることを考えてまいります。同時に、文化財保存活用地域計画の策定に伴い、史料のデジタル化と公開を進めていきたいと考えております。デジタル化が進展すれば、一般的な閲覧・利用はインターネットで可能となり、原本史料の直接閲覧は、特殊な研究目的での利用に限定できるものと考えております。

〔教育委員会事務局長　柚原徹守　着席〕

○６番（上ケ吹豊孝）

まず一般市民の方が保管されている資料なんですが、市民の方が私の研究資料を見てくださいとか、保管してくださいっていうのはなかなか言いにくいと思います。やはり行政が市民の方に、こういった資料を持っている方は申出てほしいとか、そういったことをしないと出ないと思います。

実は、この一般質問の前に、前回伺った方から、神岡町のある方が亡くなられて、その息子さんが父親の調査資料があるので私は廃棄せずにじっくり調査しますっていう話を聞いてきたということで、そういったことは恐らく市に話は行ってないと思うんです。だから先ほど困難って言われましたけども、何もしなかったらそういった資料が廃棄されることが非常に心配されます。リスト化できるといいと思いますけど、まずは市側でそういった資料があるかないかの調査はできるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（柚原徹守）

おっしゃいますように、市民の方が直接何かしら調べてほしいということで訴えをされるということは、専門の方はやれると思いますが、なかなか一般市民の方は難しいと考えます。先ほど言いましたが、この文化財保存活用地域計画の策定は、いわゆる指定・未指定を問わずに、市に眠っておるような文化財をいま一度掘り起こす作業が最も重要な作業となっておりまして、例えば、神岡町の江馬であるとか山城関係、そういったある程度のテーマを絞った形で、これについてはどこどこの地区に声かけをしてそういった資料が眠っていないかということを調べる作業をしていくのが、この計画策定の一つの作業工程になっておりますので、一斉に市民の方にどうぞ出してくださいっていう話ではないんですが、そんなようなことで資料を探していく作業はしていくつもりでございます。

○６番（上ケ吹豊孝）

市もどの方が持っているかっていうのはなかなか難しいので、地道な調査をしていただきたいというふうに思ってます。

先ほど言われたように、デジタル化するっていうことが重要で、そういった資料を保管する場所の環境が悪いということで、デジタル化することによって市民の閲覧も容易になると思いますので、ぜひデジタル化を積極に進めていただいて、アーカイブとして公開でしていただければ、もっと資料が閲覧できるというふうに思っておりますので御検討よろしくお願いします。

あと、釜崎コミュニティセンターへ私は８月の下旬に行ったんですけども、10分と言いましたけど、もう本当に５分もその部屋にはいられないぐらい暑かったんですけども、市は閲覧される方が少ないと思われているのか、環境が悪いから閲覧回数が少ないのか、どちらだというふうに思っていらっしゃいますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（柚原徹守）

正確な分析はまだ行っておりませんが、問合せ自体の数が非常に少ないという状況を踏まえますと、いわゆる専門的に調べたい方のニーズがこういった件数につながっているのではないかというふうに感じております。

○６番（上ケ吹豊孝）

私、現地へ行ったときは夏で非常に暑かったので、やはり環境が思わしくない。それと先ほど言いましたように、閲覧者がいる間は職員の方がずっと立ち会うということで、私にしてみれば、本当はもっと調べたいけども、閲覧者は職員に遠慮して閲覧回数が減っているというふうに現地へ行って思いましたので、何としても閲覧の方法、職員の方の効率を考えてやっていただきたいというふうに思います。最近は資料室ばかりではなくて、いろいろなところで登録をすれば自動で入退室できるようなシステムも世の中にあるようなので、ぜひ効率よく閲覧できるようにしていただければと思います。

あともう１点なんですが、教育委員会事務局長が言われたように、確かに飛騨市に何か所もあって、そこを全て空調整備するというのは相当なコストがかかります。私からちょっと提案なんですけども、よく見られる資料と保存しているだけの資料があると思いますが、よく調査される

資料を例えば神岡町でしたら神岡振興事務所が３階建てで会議室もたくさん空いてますし、閲覧数の多い資料だけを振興事務所に持ってくれば空調も効いていますので、そういった検討をされたことはあるんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（柚原徹守）

現在のところ検討しておるわけではございませんが、おっしゃいますように、こういった歴史資料は保存することも大事ですが、やはり活用していただくことも重要ですので、活用しやすい環境づくり、先ほどのデジタル化も含めまして見やすい場所を提供するということは、この保存活用計画の策定の中で一緒に考えていきたいと思います。

○６番（上ケ吹豊孝）

飛騨市には先人たちが調査した貴重な資料があります。埋もれてしまっては、何のために保管してるか分かりませんので、こういった資料があるってことを市民の方にもＰＲすることと、あと調査環境を整備していただいて、せっかく重要な資料がありますので、ぜひそういったことを検討していただきたいと思いまして、私の質問は終わります。

〔６番　上ケ吹豊孝　着席〕